

# 平成14年度講義要綱

神谷 傳造

平成14年4月16日

## 概 要

### 前 期

#### I. 潜在生産能力とその有効利用

##### A. 有効利用の意味

1. 潜在生産能力の決定因
2. 有効性の基準

##### B. 多期間の問題

1. 多期間問題の標準形
2. ラムゼイの理論

#### II. 「古典派」とケインズ

##### A. ケインズおよび新古典派総合

1. 非自発失業
2. 新古典派総合の意味

##### B. 「新しい古典派」

1. 合理的期待仮説
2. 「新しい古典派」理論の構成要素

#### III. インフレーション

##### A. フィリップス曲線

1. フィリップスの発見とその解釈
2. 日本経済のフィリップス曲線

##### B. マネタリストの理論

1. 自然失業率仮説の帰結
2. ルーカスの理論

## 後 期

### IV. 価格機構

- A. 個別経済主体の行動の分析
  - 1. 家計の貯蓄と資産選択
  - 2. 企業の投資行動
- B. 市場
  - 1. 価格の硬直性
  - 2. 金融市場と経済活動

### V. マクロ経済政策

- A. マクロ経済政策の課題
  - 1. 資源の完全利用
  - 2. 変動の安定化
- B. マクロ経済政策の諸問題
  - 1. 金融政策
  - 2. 財政政策

### VI. 開放経済のマクロ経済学

- A. ケインズの洞察
  - 1. 国際収支と外国為替相場
  - 2. 政策目的の二律背反
- B. マンデル＝フレミング理論
  - 1. 理論の構造
  - 2. 政策の効果

## 予定表

### 前期

1. マクロ経済学の現状
2. 有効利用の基本概念
3. 資源の生産と消費への配分
4. 多期間の問題
5. セーの販路法則
6. 非自発失業
7. 合理的期待仮説
8. 職探しの理論
9. ベヴァリッジ曲線
10. 物価変動と経済活動
11. フィリップス曲線
12. 自然失業率と NAIRU

### 後期

1. 家計の貯蓄と資産選択
2. 企業の投資行動
3. 金融市場と経済活動
4. インフレーションの社会費用
5. 経済変動の社会費用
6. 貨幣供給と物価，経済厚生
7. 財政政策の手段
8. 金融政策の手段
9. 「リカードの等価性定理」
10. 政策の時間不整合性の問題
11. ケインズの洞察
12. マンデル＝フレミングの理論